

富士山女子駅伝

全チーム唯一の1年生エース

福嶋がエース区間(5区)で快走

見事な5位

フイニッシュ!

城西大学

sports

富士山女子駅伝報告号

JCU

2020年1月 vol.41

城西大学の題字は創立者・水田三喜男先生
発行所：〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1 城西大学

ゴールテープを切る7区・三ツ木桃香 月刊陸上競技提供



アンカー三ツ木が
最難関区で順位死守、
副将小笠原も意地の走り

4区・佐光菜々子から5区・福嶋摩耶へ
襷渡し 月刊陸上競技提供1区・藤村華純から
2区・渡辺光美へ襷渡し

良い流れに乗って走る3区・今さつき

沿道の声援を受け力走する
6区・小笠原晴季

2019全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)は2019年12月30日、静岡県富士宮市と富士市で開かれ、女子駅伝部は2時間26分16秒で過去最高の5位入賞を果たした。前年の11位から躍進した。最長エース区間で福嶋摩耶(経営1)が区間3位の力走で2人を抜いて順位を5位に上げたほか、学生最後のレースに臨んだ小笠原晴季(経営4)が区間2位、今さつき(経営4)が同3位、佐光菜々子(医療栄養4)が同9位など、集大成の走りを見せ、全日本選抜を除いた単独チームでは4番目にゴール。目標の3位表彰台に肉薄する好レースを展開した。

〔富士山女子駅伝取材班〕

雨模様の中、レースは7区間43・4キロで行われ、女子駅伝部は4年生4人と1年生3人で挑んだ。1区に起用されたのは、高校駅伝強豪の千葉・成田高校出身のスヒードランナーの藤村華純(経営1)。先頭集団につき、1位と15秒遅れの6位で2区の渡辺光美(経営1)に襷をつないだ。渡辺は区間13位ながら粘って9位で3区・今さつきに襷渡し。良い流れを切らさなかった。

今は今年急成長したものの、10月の全日本大学女子駅伝では出場が叶わなかった。その悔しさをぶつける走りでも順位を2つ上げた。管理栄養士を目指している4区の佐光菜々子は、実習などで他のメンバーと一緒に練習ができないことも多く、一人で黙々と走り込んできた「頑張り屋さん」だ。区間9位と踏ん張り、順位を守った。

全日本の5区で8人抜き快走を演じ、エースに成長した福嶋摩耶は、学生長距離界の第一人者が集まった5区で再び快走を見せた。一時は大東文化大学のエース、関谷夏希選手を抜いて4位に上がる強気の走り、全チームの

中5区を任せられた唯一の1年生ランナーとは思えない圧巻の走りを見せた。6区の副主将・小笠原晴季は全日本の1区で20位と沈んだレース後、「助けられた借りを必ずチームに返す」と語っていたが、その言葉通りに意地を見せた。不動のアンカーは主将の三ツ木桃香(現代政策4)。高低差169メートルの難関区間7区を走り抜き、5位を死守して富士総合運動公園陸上競技場のゴールテープを切った。

**関東大学女子駅伝
8年ぶり11回目の優勝**

女子駅伝部は9月の関東大学女子駅伝で8年ぶり11回目の優勝。10月の全日本では6位入賞し、2年ぶりにシード権を奪還した。大学女子駅伝界では、名城大学、大東文化大学、立命館大学が3強と言われており、今回の富士山女子駅伝では単独チームではこの3強に次ぐ結果となった。有力な1年生が多いチームの来シーズンの飛躍に期待が持てる。

富士山女子駅伝

—2013年にリニューアル

全日本大学女子選抜駅伝競走は2004年に第1回が埼玉で行われ、07年からの茨城開催を経て09年を最後に休止となった。13年に世界遺産に登録された富士山を仰ぎ見る静岡に舞台を移し、「富士山女子駅伝」としてリニューアルされた。

総合5位 (2時間26分16秒)	名前(学部学年)	記録(区間順位)	通過順位	過去の成績	
1区(4.1* ₆)	藤村 華純(経営1)	13分05秒(6位)	6位	2018年	11位
2区(6.8* ₆)	渡辺 光美(経営1)	21分50秒(13位)	9位	2017年	11位
3区(3.3* ₆)	今 さつき(経営4)	10分20秒(3位)	7位	2016年	15位
4区(4.4* ₆)	佐光菜々子(医療栄養4)	14分39秒(9位)	7位	2015年	11位
5区(10.5* ₆)	福嶋 摩耶(経営1)	35分07秒(3位)	5位	2014年	11位
6区(6.0* ₆)	小笠原晴季(経営4)	20分13秒(2位)	5位	2013年	8位
7区(8.3* ₆)	三ツ木桃香(現代政策4)	31分02秒(13位)	5位		

